

[ 横浜美術館 ]  
令和7年度業務計画及び収支予算  
[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい3丁目4番1号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階建 一部3階建
敷地・延床面積	19,803 m <sup>2</sup> ・27,014 m <sup>2</sup>
開館日	平成元年11月3日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階
代表者	理事長 近藤誠一
設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	令和5年4月1日から令和15年3月31日まで
現指定管理者の管理運営開始日	平成25年4月1日 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団単独での管理運営開始日)

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

横浜市の施策と、今日社会において美術・美術館が果たすべき役割を踏まえ、指定期間を通じて事業目標および指標を達成するため、「みなとモデル」を指針として掲げます。

【「みなとモデル」の3つの柱】

- (1) 「多様性」：さまざまな人や情報が行きかう場、互いを認め合う場となる
- (2) 「持続可能な活動」：コレクションや人材など美術館を支える基盤を整備し、持続可能かつ質の高い活動を行う
- (3) 「健全な経営」：健全な経営意識を持ち、安定した運営を行う

「みなとモデル」の理念を事業運営や施設整備に反映させるため、特に下記の3点を強化項目とします。

### 【3つの強化項目】

- (1) 「多様性」：「美術の広場」に面する部分を中心とする無料ゾーンを「じゅうエリア」と名付けます。この「じゅうエリア」を空間構築により新しく整えるとともに、部署連携による一的な運営を行い、館を訪れる誰もが自分らしくいられる空間をしつらえます。
- (2) 「みなとモデル」のうち、特に中心となる「多様性」について、制度や事業の具体化を進めます。「多様性」はあまりに大きく、漠然としがちな概念ですが、この中から当面のあいだ「子どもと子育て世代」をターゲットに設定し、横浜美術館の特色を打ち出します。ここをターゲットに選んだ主な理由は下記のとおりです。
- ・「子どものアトリエ」事業における30年以上の活動実績がある。
  - ・市の施策に合致している。
  - ・みなとみらい地区の主な客層に合致している。
  - ・将来の観客育成につながる。
  - ・「子どもと子育て世代」を入口に、経済格差、障害等さまざまな問題への展開が可能である。
- (3) 「持続可能な活動」：市民の財産であるコレクションの活用を深化させるため、学芸グループ、教育普及グループを含め部署間の一層の連携を図ります。また、専門人材の長期的な育成に取り組みます。

リニューアル後の美術館の理念を内外につたえるものとして、また職員の行動のよりどころとして、「ミュージアム・メッセージ」「ステートメント」および「横浜美術館 5つの願い」（いずれも和英）を作成しました。

### 【ミュージアム・メッセージ】

みなとが、ひらく

### 【ステートメント】

美術館は、港のようだと思います。  
どんな人も歓迎する。  
来るもの、出るもの、多様な文化や価値観が交錯する。  
今と過去と未来を中継する。  
バリアもボーダーも飛び越えていく。  
そして、世界に開かれた港町の美術館として  
歩んできた私たちは、さらに思うのです。

ここに訪れるすべてのあなたもまた、港なのだと。  
自由な出会い、豊かなまなび、自分らしくいられる時間。  
みて、つくって、まなんで、見晴らしのいい気分で、未来へ針路をとるために。  
たとえ時代が変わっても、今日という暮らしのそばで  
横浜美術館は、あなたという港がひらく場でありたいと思います。

### 【横浜美術館 5つの願い】

1. 誰もが尊重され、自分らしくいられる場でありますように。
2. 人、もの、考えとの新たな出会いの場でありますように。
3. 今日を生きるよろこびを感じられる場でありますように。
4. このよろこびが、美術館から街へと広がりますように。
5. ひとりと、地域と、世界がつながりますように。

## (2) 令和7年度の業務の方針

### ア 全体について

令和7年度は、横浜美術館のリニューアルオープン後、通年での本格稼働が始まる年です。だれもが思い思いに過ごせる美術館を目指して、来館者お一人おひとりが美術館での様々な体験を通じてより良い時間を過ごせるよう業務に取り組みます。

#### 【事業目標1】

- ・「じゅうエリア」（ギャラリー8・9、グランドギャラリー等）でのコレクション展示を開催します。
- ・「おかえり、ヨコハマ」展以降の企画展と並行してコレクション展を開催します。

#### 【事業目標2】

- ・「第9回横浜トリエンナーレ」の準備を行います。
- ・「おかえり、ヨコハマ」展（令和7年2～6月）、「佐藤雅彦展」（6月～11月）、「日韓現代美術展（仮称）」（12月～令和8年3月）を開催します。
- ・令和8年度以降のコレクション展、企画展、プログラムを含む諸事業の準備を進めます。

#### 【事業目標3】

- ・「学校のためのプログラム」を再開します。造形と鑑賞を組み合わせ、学齢にあわせたプログラムの実施により、より多くの子供たちが美術に触れる機会を提供します。
- ・企画展やコレクション展に関連した教育普及プログラムを定期的に開催します。
- ・美術に関心を持つさまざまな人が心的バリアを感じることなく参加できる社会包摂のプログラムを実施します。

#### 【事業目標4】

- ・「じゅうエリア」に関する情報やコレクションに関わる豊かな鑑賞・創作体験を公式メディアを中心に発信します。
- ・ターゲットに合わせて様々なメディアをとおした企画展の発信に取り組みます。

#### 【事業目標5】

- ・地域のさまざまな施設や団体と連携を強化します。

イ 事業目標1 魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。

### ◎収集

#### ◇収集作品の提案（定性指標①：収集作品の提案）

- ・令和7年度の横浜市美術資料収集審査委員会に向け、候補作品をとりまとめて提案します。
- ・中期的収集方針の検討を進め、収集が望まれる領域・作家・作品の調査活動を継続的におこないます。

#### ◇購入財源確保に向けた市との連携（定性指標③：収集作品購入財源確保に向けた取組への参画）

- ・寄贈に頼らない主体的な収集活動の実現を目指し、継続的な作品購入のスキームとその財源の確保に関して市との連携体制を構築します。

### ◎活用（定量指標①：作品活用数、定量指標②：日英2言語による作品解説の提供数）

#### ◇国内外の美術館等と連携した様々な活用（定性指標②：他の美術館等と連携した取組）

- ・国際会議（CIMAM、IEOなど）等を通じたネットワークの構築、最新の動向の把握を継続し、作品貸出をはじめとする国内外の美術館との相互連携の機会拡充を図ります。

#### ◇その他の活用

- ・コレクション画像について、新収蔵品をはじめとするウェブサイト未掲載作品の画像を順次公開します。

- ・コレクションの基礎情報について、日英両語のデータ整備、ウェブサイト上の情報更新を引き続きおこないます。
- ・コレクションの作品解説について、日英両語での解説文をウェブサイト上で公開します。
- ・リニューアル後のコレクションの展示にあたり、読みやすさとデザイン性を両立させた統一フォーマットの文字ツール（キャプション・解説パネル等）を、展示室やグランドギャラリーでの作品展示において使用します。

ウ 事業目標2 質の高い多様な展覧会の実施を通じて新たな美術の価値を創造し、来館者の裾野を拡げます。

◎横浜トリエンナーレ

◇アジアやアフリカをはじめとする欧米以外の国と地域も含めて、グローバルな視点に立ち、国際都市横浜ならではの文化交流の発展に貢献するため、次のとおり実施します。

- ・第9回横浜トリエンナーレ開催に向けて準備を行います。
- ・展覧会を広く普及する事業の準備は教育普及グループと連携して進めます。
- ・IBA(International Biennial Association) 等に継続的に参加することで、海外発信の機会を設けるほか、現代美術による文化交流を推進します。

◎展覧会

◇新たな美術の価値を創造する質の高い多様な展覧会を提供するため、第3期提案書に掲げた「企画における観点」、加えてリニューアル後の重点的ターゲットとして設定した「子どもと子育て世代」をはじめとする多様な層への訴求という観点を踏まえて、コレクション展、企画展のプログラムを実施します。（定量指標①：来館者数、定量指標②：展覧会来館者満足度、定量指標③：新規来館者数、定性指標①：来館者の展覧会への評価の把握）

**【コレクション展】**

- ・令和7年度のコレクション展、ギャラリー8・9、グランドギャラリー等でのコレクション展示について実施します。

**【企画展】**

- ・「おかげり、ヨコハマ」展以降の企画展について諸準備を進め、順次実施します。
- ・令和8年度の企画展の企画内容、日程、体制等を確定し、開催に向け内外との調整をおこないます。
- ・令和9年度以降の企画展について、内部・外部から企画提案を募り、スケジュールとラインナップの検討に着手します。

エ 事業目標3 美術と人々を様々な糸口でつなぎ、生きる力を培います。

◎教育普及プログラム

◇美術作品を収蔵・展示する美術館という場の特性を生かしながらさまざまな人たち、とりわけ次代を担うこどもたちにむけて、美術の魅力を届ける教育普及事業を展開します。

開館当初より休館前まで継続実施してきた「学校のためのプログラム」を再開します。（定量指標④：次世代を担う、プログラム等への参加者）

- ・企画展やコレクション展に関連した造形プログラムを定期的に開催します。（定量指標①：コレクション関連事業数）
- ・社会包摂を目的とした鑑賞プログラムを展覧会ごとに実施します。（定性指標①：さまざまな方に美術に触れてもらうためのノウハウの蓄積）
- ・「じっくりみる、この1点」の新作を公開します（4本）（定量指標②：オンラインデジタルコンテンツの公開数）
- ・プログラムの開催にあたり定期的にアンケートを実施し、参加者属性のデータやニーズの把握に努めます。アンケート結果をもって、運営面の課題解決と新規プログラムの立案に生かします。（定性指標②：美術館活動の参加者の継続動向の把握）

## ◎美術図書室

◇令和4年度に定めた「改修後の「美術情報センター」のあり方（多様な層への訴求・専門性の維持・運営体制の整備と継続）」に基づき、来室者に蔵書の閲覧やレファレンスをはじめとする各種サービスを提供します。（定量指標③：美術図書室利用者数）

オ 事業目標4 諸活動の基盤を整備し、社会情勢の変化に対応できる施設運営を行います。

## ◎広報

◇ターゲットに合わせた企画展発信により、集客および評価の獲得に努め、「じゅうエリア」に関する情報やコレクションに関わる鑑賞・創作体験の発信により、美術館の価値向上と市民生活への浸透を目指します。（定量指標④：オウンドメディアへのリーチ数）

## ◎来館者へのサービス（ホスピタリティー）

◇来館者の満足度を高め、開かれた場を創出するため、以下を基本方針として掲げます。

第3期指定管理における提案の主要な観点である「多様性」の概念を「ユニバーサル」と「インクルージョン」とに大別して、「ユニバーサル」「インクルージョン」の視点に立った環境整備・人的対応・展示・教育プログラム等の施策を検討・実施します。（定性指標①：施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング、定性指標③：来館者満足度の把握）

## ◎施設管理運営

◇日常点検および法定点検等を着実に実施します。また、深刻な修繕が必要な事態に進展しないよう、小破修繕を着実に実施します。大規模改修直後の、機器交換にともなう不具合の発生等にも十分に注意しながら、予算を効率的に執行しつつ、計画的な点検や修繕を行います。（定量指標①：施設の管理瑕疵に起因する事故件数、定量指標②：法定点検等の実施率）

## ◎収支

◇安全かつ快適に施設を利用できるよう計画的に必要な修繕を実施します。また、令和7年度は初めて通年での運営となることを踏まえ、仮決算・決算における管理運営費の執行状況把握と要因分析を行います。（定量指標③：修繕予算の執行率、定性指標②：管理運営費推移の要因分析）

カ 事業目標5 横浜市の中核的な文化拠点として、地域の様々な施設や団体と連携し、地域社会のポテンシャルの向上に貢献します。

## ◎「じゅうエリア」の一体的な運用

◇みなとみらいの都市計画や丹下建築の理念を踏まえ、美術館前に集う子育て世代をはじめ多様な人々がともに心地よく過ごすことができる場を館内に設定し、さまざまな刺激とくつろぎを体感できるようにします。（定性指標②：「じゅうエリア」の一体的運用）

## ◎ミュージアムショップ・カフェの運営

◇「みなとモデル」「じゅうエリア」の考え方を実現するための重要な場所の一つとして、当館の多様な来館者を迎える施設の一翼を担います。

## ◎美術館を支える組織や個人のためのプログラム

◇地域の様々な企業・団体等との連携事業を行い、地域のにぎわい創出及び地域のアイデンティティの形成に寄与します。また、SDGs など地域における社会問題の改善・解決についても、文化施設の立場から積極的に参画します。（定性指標①：文化観光拠点との連携、定量指標②：事業による連携団体等の数）

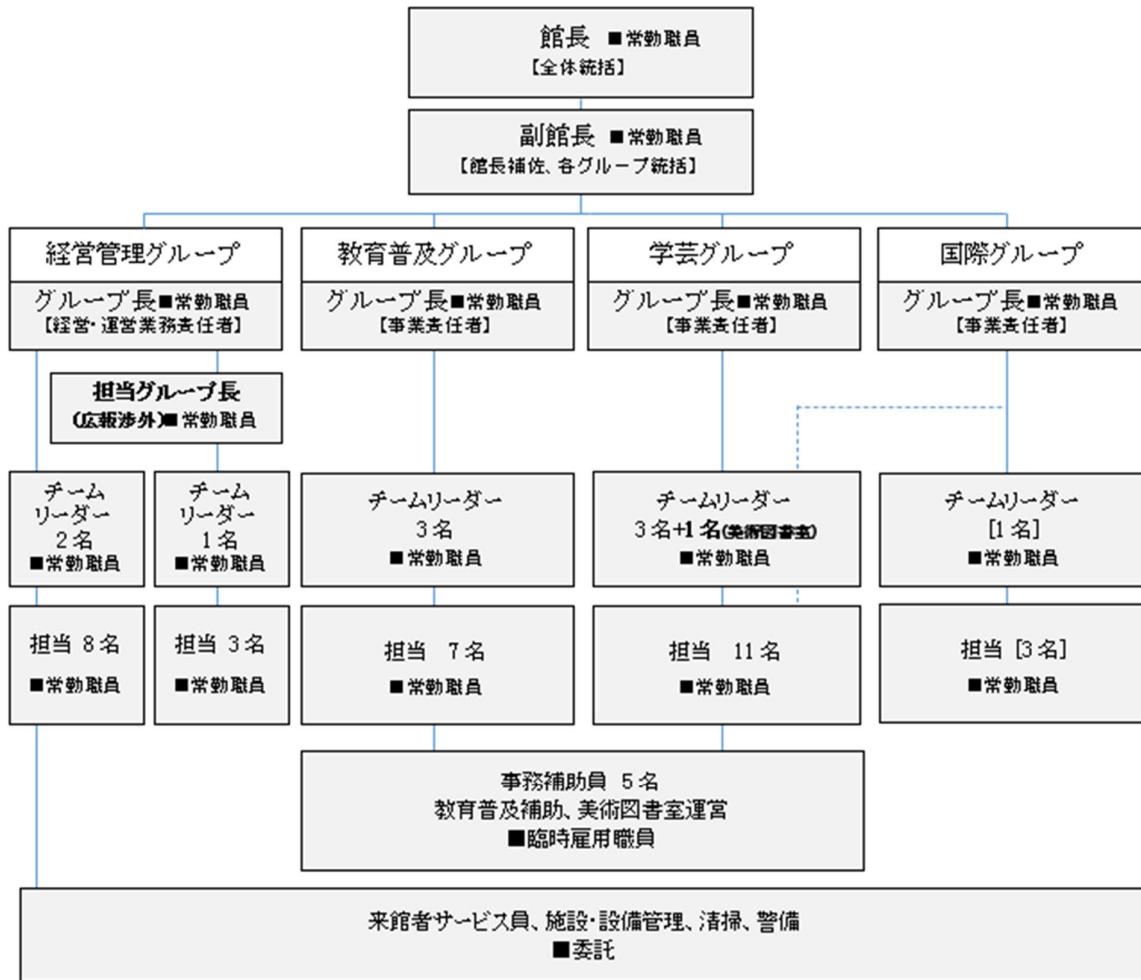
## ◎広報（再掲）

◇ターゲットに合わせた企画展発信により、集客および評価の獲得に努め、「じゅうエリア」に

に関する情報やコレクションに関わる鑑賞・創作体験の発信により、美術館の価値向上と市民生活への浸透を目指します。(定量指標①：首都圏認知率)

#### 4 運営組織の構造、人員配置

- ・全体統括者である館長、館長を補佐する副館長の下、4つのグループで館を運営します。
- ・各グループの専門性を活かしつつ、グループ間の連携を重視して、業務に取組みます。



[ ]の人員は指定管理料外財源(横浜トリエンナーレ組織委員会の財源)で雇用

5 事業目標の指標の達成状況と令和7年度の重点的取組事項  
 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

(1) 事業目標 1 魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。

ア 定量指標

通番	項目	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 実績	R 9 達成 指標	R 9 実績	R 14 達成 指標
1	作品活用数 (展示、貸出、特別利用の合計)	222点 (特別利用のみ)	—	—	—	630点	—	630点
2 ★	日英2言語による作品解説の提供数	220点	—	—	—	100点 (累計600点)	—	50点 (累計850点)

イ 定性指標

通番	項目	達成指標と各年度の実績					
1	収集作品の提案	R 5 実績	収集候補作品(2,008点)の提案、中期の方針の検討(検討の結果、「性差」「同時代」「国際性」「横浜ゆかり」「分野」という5つの視点のもと、より多様性に富んだコレクションの形成を進める中期の方針を纏めました。)				
		R 6 実績	—				
		R 7 実績	—				
		R 8 実績	—				
		R 9 達成指標	購入も含めた収集候補作品を毎年度提案するとともに、新たな中期の方針を策定し、横浜市に提案				
		R 9 実績	—				
		R 14 達成指標	新たな中期の方針に基づき、購入作品を含む収集候補作品を毎年度提案				
2	他の美術館等と連携した取組	R 5 実績	日韓現代美術展(仮称)の開催に向けた海外美術館との展覧会共同企画・巡回に関する交渉				
		R 6 実績	—				
		R 7 実績	—				
		R 8 実績	—				
		R 9 達成指標	国内機関との連携事業実施				
		R 9 実績	—				
3	収集作品購入財源確保に向けた	R 14 達成指標	海外機関との連携事業実施				
		R 5 実績	企業寄付金にもとづく新作委嘱作品の制作支援				
		R 6 実績	—				

取組への参画	R 7 実績	—
	R 8 実績	—
	R 9 達成指標	リニューアルオープン記念美術品購入、および以降の安定的な収集活動の継続に向けた市との連携
	R 9 実績	—
	R 14 達成指標	開館 40 周年記念美術品購入、および以降の安定的な収集活動の継続に向けた市との連携

ウ 事業目標 1 を達成するために重点的に取組む事項

コレクション展について、定量指標①（年間 630 点の展示等によるコレクション活用）を確実に達成することを念頭に、令和 8 年度の具体的な展示内容を検討します。

また、令和 4 年度よりウェブサイトでの公開を開始した作品解説については、文化庁からの当該事業経費の補助期間が終了する令和 6 年度中に、令和 9 年度の達成指標「累計公開数 600 点」を達成する見込みです。令和 7 年度以降も、既収作品のコレクション展での公開や新規収蔵の機会にあわせて、執筆、公開作業を進めます。

収集候補作を毎年度横浜市に提案することに加え、令和 9 年度に予定されている中期的収集方針の横浜市への提案に向け、リニューアルオープン後の美術館と社会をとりまく状況や課題を確認し、令和 5 年度に作成した中期の方針に新たに盛り込むべき内容の検討に着手します。

さらに、コレクションの大規模な相互貸出や共同企画等、他美術館との連携事業について、「日韓現代美術展（仮称）」における韓国国立現代美術館との共同企画および巡回の実現を目指し、企画立案を進めます。

このほか、文化基金の継続的積立と安定的運用に関する市の取組（ネーミングライツ等）に積極的に関与し、作品購入活動の活性化を目指します。

(2) 事業目標 2 質の高い多様な展覧会の実施を通じて新たな美術の価値を創造し、来館者の裾野を拡げます。

ア 定量指標

通番	項目	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 実績	R 9 達成指標	R 9 実績	R 14 達成指標
1	来館者数	29,567	—	—	—	40 万人	—	45 万人
2	展覧会来館者満足度（展覧会アンケート）	(未実施)	—	—	—	4.3 (満点 5.0)	—	4.3 (満点 5.0)
3 ★	新規来館者数（総来館者に占める割合）	(未実施)	—	—	—	20%	—	20%

イ 定性指標

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	来館者の展覧会への評価の	R 5 実績	(未実施)
		R 6 実績	—

把握	R 7 実績	—
	R 8 実績	—
	R 9 達成指標	意見を踏まえ、改善計画を策定し、実施
	R 9 実績	—
	R 14 達成指標	実施結果の検証を踏まえ、計画を見直し、実施

ウ 事業目標 2 を達成するために重点的に取組む事項

令和 9 年度における定量指標①（年間来館者数平均 40 万人）の達成に向け、令和 7 年度は年間来館者数 30 万人を目標に、多くの市民に親しまれる展覧会の企画、ギャラリー 8・9 や大階段での展示を進めます。全館オープンを経て、「みなとモデル」の理念を具体化するべく、子どもも大人も一緒に楽しめる展示やしかけを充実させます。

また、定量指標②（展覧会来場者満足度年平均 4.3）の達成に向け、魅力的な展覧会を立案し、準備を進めます。

さらに、定量指標③（新規来館者率 20%）の達成に向け、より多様なジャンルやテーマの展覧会を立案するとともに、だれもが無料でくつろげる「じゅうエリア」を拡充し、ギャラリー 8・9 での展示や、飲み物を飲んでおしゃべりを楽しめる「まるまるラウンジ」、お子さんが家族と一緒に利用できる「くつぬぎスポット」などにより魅力アップに努めます。

このほか、来館者の評価や意見聴取、それを踏まえての改善計画の策定、反映にいたる PDCA サイクルによる検証と実施をよりスムーズかつ効果的に行うため、フロー、アンケート内容および聴取方法の見直しを令和 6 年度に引き続き行います。

【R7 年度に行う企画展の内容】

以下 3 本の展覧会を「リニューアルオープン記念展」として開催します。

1. 「おかえり、ヨコハマ」展（令和 7 年 2 ～ 6 月）

横浜の地理・歴史、折々の社会情勢との関わりを考えながら、「ヨコハマ」を多面的にみつめなおす展覧会。当館の収蔵品を前面に押し出し、また開港以前の横浜に暮らした人々、女性、子どもなど、これまであまり注目されることのなかった存在にも光をあて、リニューアル後の横浜美術館が標榜する「多様性」と「コレクションの活用」を体現します。

2. 「佐藤雅彦展」（6 月～11 月）

『ピタゴラスイッチ』『0655/2355』（NHK 教育）などの教育番組、『バザールでござーる（NEC）』『スコーン（湖池屋）』などの CM をはじめ、メディアを横断して話題作を世に送り出し続ける佐藤雅彦。40 年にわたるその活動を網羅的に紹介し、そこに通底する独創的な志向方法と表現手法を浮き彫りにします。

3. 「日韓現代美術展」（12 月～令和 8 年 3 月）

日韓国交正常化 60 周年の節目にあたって、地理的にも文化的にも近しい他者として長い歴史を歩んできた日本と韓国の美術の関係史を紐解く、初の大規模展覧会。知られざる 1965 年の国交正常化前後の時期における両国の美術家たちの交流を軸に、1945 年から現代にいたるまでの両国のアートを通じた接点や断絶、共通点と差異を紐解いていきます。

上記の 3 展覧会は、第 3 期指定管理者提案書において掲げたリニューアル後の展覧会の方針との関係の観点では、「おかえり、ヨコハマ」展は「テーマやジャンルの多様性」を、「佐藤雅彦展」は「テーマやジャンルの多様性」および「幅広い層への訴求」を、「日韓現代美術展」は「国際交流」を象徴する企画であり、「リニューアルオープン記念展」にふさわしいラインナップです。

（3）事業目標 3 美術と人々を様々な糸口でつなぎ、生きる力を培います。

ア 定量指標

通番	項目	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 実績	R 9 達成指標	R 9 実績	R 14 達成指標
----	----	--------	--------	--------	--------	----------	--------	-----------

1	コレクション 関連事業数	11	—	—	—	25回	—	25回
2	オンラインデジタルコンテンツの公開数	13	—	—	—	5件	—	5件
3	美術図書室利用者数	(閑室準備)	—	—	—	1.2万人	—	1.2万人
4 ★	次世代を担う、プログラム等への参加者	5,994	—	—	—	2.9万人	—	2.9万人

イ 定性指標

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	さまざまな方に美術に触れてもらうためのノウハウの蓄積	R 5 実績	主に学芸員やエデュケーターなど美術専門職員を対象とした専門人材研修や他館へのヒアリング調査を実施
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 実績	—
		R 9 達成指標	蓄積された事業ノウハウ(5年間)を外部有識者会議にて振り返り報告
		R 9 実績	—
		R 14 達成指標	蓄積された事業ノウハウ(10年間)を外部有識者会議にて振り返り報告
2	美術館活動の参加者の継続動向の把握	R 5 実績	(未実施)
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 実績	—
		R 9 達成指標	外部有識者会議でのアンケート結果(5年間)の報告
		R 9 実績	—
		R 14 達成指標	外部有識者会議でのアンケート結果(10年間)の報告

ウ 事業目標3を達成するために重点的に取組む事項

横浜市内の幼稚園・保育園、小学校、個別支援学級・養護学校の学校単位でこどもたちを受け入れる「学校のためのプログラム」を再開します。子どもたちの学齢や特性にあわせ、子どものアトリエの設備を生かしたダイナミックな造形活動に加えて、展示空間に足を運ぶ鑑賞活動を組み合わせたプログラムを提供します。「みんなのフリーゾーン」とあわせて次代を担う子どもたちが美術に触れ、親しむ機会を提供します。

市内の幼稚園・保育園、学校に出向いて造形プログラムを実施します。また医療センターや高齢者施設等でのアウトリーチを通して、さまざまな人たちに向けてアートの魅力を届けます。

コレクション展や企画展等、展覧会に関連した造形プログラムを定期的に開催し、コレクション

の魅力を多面的に紹介します。

さまざまな理由により美術館に足を運ぶことが難しい人たちに向けたオンライン鑑賞会の実施や、視覚に障がいのある人とない人がともに楽しむ鑑賞会、手話通訳や英語通訳つきのギャラリートークの実施など、社会包摂を目的としたアクセスプログラムを展覧会ごとに開催します。

発達障がいのある方に向けた社会学習ツール「ソーシャルストーリー」を公開します。

美術図書室は、美術の広場から直接アクセスできるフロアに引っ越し、オリジナルデザインのテーブルとイスを設えたスペースに生まれ変わりました。アートにまつわる絵本から専門書まで蔵書を充実させ、より幅広い方々に無料でご利用いただけるように運営します。

#### (4) 事業目標4 諸活動の基盤を整備し、社会情勢の変化に対応できる施設運営を行います。

##### ア 定量指標

通番	項目	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 実績	R9 達成 指標	R9 実績	R14 達成 指標
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0	—	—	—	0件	—	0件
2	法定点検等の実施率	—	—	—	—	100%	—	100%
3	修繕予算の執行率	—	—	—	—	90%	—	90%
4	オウンドメディアへのリーチ数	215万	—	—	—	500万PV	—	500万PV
5 ★	收支バランスの推移	+34,406千円	—	—	—	均衡/5年	—	均衡5年
6 ★	計画的な専門人材の配置 学芸員平均在籍年数	17.25	—	—	—	10年	—	10年

##### イ 定性指標

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R5 実績	(未実施)
		R6 実績	—
		R7 実績	—
		R8 実績	—
		R9 達成指標	意見を踏まえ、改善計画を策定し、実施
		R9 実績	—
		R14 達成指標	実施結果の検証を踏まえ、計画を見直し、実施
2	管理運営費推移の要因分析	R5 実績	令和5年度仮決算及び決算での要因分析、執行管理
		R6 実績	—

		R 7 実績	—
		R 8 実績	—
		R 9 達成指標	複数年の要因分析により、複合的な原因を明確化。次期 5 年間の予算策定において経営資源の再配分情報として活用
		R 9 実績	—
		R 14 達成指標	10 年間の要因分析に今後予想される外的要因等を加味し、管理運営費予算を最適化。持続可能な経営の達成に寄与
3	来館者満足度(スタッフの対応、使い勝手の良さ、清潔さ)の把握	R 5 実績	(未実施)
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 実績	—
		R 9 達成指標	意見を踏まえ、改善計画を策定し、実施
		R 9 実績	—
		R 14 達成指標	実施結果の検証を踏まえ、計画を見直し、実施

ウ 事業目標 4 を達成するために重点的に取組む事項

だれもが無料でくつろげる「じゅうエリア」を拡充し、大空間であるグランドギャラリーを中心に飲み物を飲んでおしゃべりを楽しめる「まるまるラウンジ」、お子さんが家族と一緒に利用できる「くつぬぎスポット」、彫刻の近くで座ってくつろげる大階段など魅力アップに努めます。

また、大階段での段差解消機の配置・運用などによる合理的配慮に基づいた対応や、音声とテキストで楽しめるデジタルガイドアプリの拡充など、「ユニバーサル」「インクルージョン」の視点に立った運営に取り組み、全ての来館者にとって「美術館にきてよかったです。」と思われる快適で細かなサービスを提供します。

コレクションに関する発信の強化とターゲットに合わせた SNS の運用を行います。

適正かつ計画的な経費執行とともに収入確保に向けて取り組み、収支の均衡に努めます。また、令和 7 年度はリニューアル後初めて通年での運営となることを踏まえ、仮決算・決算において管理運営費を分析・検証します。

大規模改修後、施設・設備の増設等により改修前に比べて光熱水費や保守点検経費の増加が予測される中、初めて通年での通常開館となる年にあたり、新たに委託が始まる設備運転監視等業務をはじめ施設及び設備の保全等については、利用者、来館者が安全かつ快適に利用できるように適宜適切に管理に取り組みます。また、大きな修繕が生じた場合には、横浜市と十分協議を進めながら施設及び設備の長寿命化の視点で計画立案することで、施設の状態を常に良好に保ち、安全かつ快適に利用できるように適切な管理を行います。

(5) 事業目標 5 横浜市の中核的な文化拠点として、地域の様々な施設や団体と連携し、地域社会のポテンシャルの向上に貢献します。

ア 定量指標

通番	項目	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 実績	R 9 達成指標	R 9 実績	R 14 達成指標
1	首都圏認知率	41. 1	—	—	—	50%	—	50%
2	事業による連	33	—	—	—	90 件	—	90 件

★	携団体等の数						
---	--------	--	--	--	--	--	--

イ 定性指標

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	文化観光拠点との連携	R 5 実績	文化観光拠点会議の実施など多様な連携実施に向けた準備
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 実績	—
		R 9 達成指標	多様な連携を分類、連携の有効性の観点から、館内で評価を実施
		R 9 実績	—
		R 14 達成指標	連携事業結果の総括・検証と、有効な連携の在り方を館内で共有
2 ★	じゅうエリアの 一體的運用	R 5 実績	「じゅうエリア」の運用について課題整理やスケジュールの検討、準備
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 実績	—
		R 9 達成指標	事業を踏まえ、運用計画を策定し、実施
		R 9 実績	—
		R 14 達成指標	実施結果の検証を踏まえ、計画を見直し、実施

ウ 事業目標 5 を達成するために重点的に取組む事項

だれもが無料でくつろげる「じゅうエリア」を拡充し、大空間であるグランドギャラリーを中心  
に飲み物を飲んでおしゃべりを楽しめる「まるまるラウンジ」、お子さんが家族と一緒に利用できる  
「くつぬぎスポット」、ギャラリー 8・9 での展示などで魅力アップに努め一體的な運用を図ります。

また、(公財)横浜市観光協会や(一社)横浜みなとみらい 21 と連携し、Art & Museum Map を活用した取り組みなどを通じて MM21 地区の観光・周遊の拠点の一つとして事業展開に取り組みます。さらに、企画展等と連動したオリジナルグッズ販売やメニュー展開などミュージアムショップ・カフェの魅力向上によって、美術館前の広場に集う人々の関心を喚起して入館へと導き、美術館の事業への参加につなげます。

近隣施設等との会議・会合に参加、情報共有、連携事業に取り組み地域のにぎわいの創出に貢献します。

## 6 令和7年度の予算

(指定管理者が記入する様式)

令和7年度 「横浜美術館」 収支予算書及び報告書						
収入の部						
科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	(税込、単位：円)
指定管理料	806,762,000		806,762,000	806,762,000		横浜市より
利用料金収入	53,355,000		53,355,000		53,355,000	図版使用料、コレクション展観覧料、駐車場収入、レクチャーホール利用料
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入	0		0		0	展覧会収入、講座料収入、負担金収入等
自主事業収入	206,939,000		206,939,000		206,939,000	
雑入	74,598,000	0	74,598,000	0	74,598,000	
印刷代	0		0		0	
自動販売機手数料	1,000,000		1,000,000		1,000,000	自動販売機売上手数料
駐車場利用料収入	0		0		0	
その他（ショップ他）	18,808,000		18,808,000		18,808,000	ショップ・カフェ売上収入、館内施設貸出等
その他（協賛金、補助金、寄付金）	54,790,000		54,790,000		54,790,000	企業協賛金、助成金、補助金、事務局総入金収入
収入合計	1,141,654,000	0	1,141,654,000	0	1,141,654,000	
支出の部						
科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	368,806,000	0	368,806,000	0	368,806,000	事務局積算（アルバイト代含む）
給与・賃金	305,398,000		305,398,000		305,398,000	職員、派遣職員人件費
社会保険料	44,349,000		44,349,000		44,349,000	
通勤手当	7,077,000		7,077,000		7,077,000	
健康診断費	199,000		199,000		199,000	
勤労者福祉共済掛金	264,000		264,000		264,000	
退職給付引当金総入額	11,519,000		11,519,000		11,519,000	
事務費	19,235,000	0	19,235,000	0	19,235,000	
旅費	150,000		150,000		150,000	
消耗品費	930,000		930,000		930,000	新聞、日常消耗品
会議賄い費	0		0		0	
印刷製本費	600,000		600,000		600,000	名刺、封筒印刷費
通信費	2,730,000		2,730,000		2,730,000	郵送料、電話料金、Wi-Fi使用料等
使用料及び賃借料	1,695,000	0	1,695,000	0	1,695,000	
横浜市への支払分	75,000		75,000		75,000	
その他	1,620,000		1,620,000		1,620,000	コピー機レンタル料等
備品購入費	7,000,000		7,000,000		7,000,000	備品購入費
図書購入費	0		0		0	
施設賠償責任保険	250,000		250,000		250,000	施設賠償責任保険料等
職員等研修費	50,000		50,000		50,000	研修、講習費等
振込手数料	350,000		350,000		350,000	
リース料	2,480,000		2,480,000		2,480,000	パソコンリース
手数料	1,900,000		1,900,000		1,900,000	廃棄処理料等
地域協力費	1,100,000		1,100,000		1,100,000	各種年会費
事業費	187,542,000	0	187,542,000	0	187,542,000	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費			0		0	
自主事業費	187,542,000		187,542,000		187,542,000	展覧会事業運営費、講座運営費、作品・図書保全費、ウェブサイト運営費等
管理費	428,160,000	0	428,160,000	0	428,160,000	
光热水費	115,172,000	0	115,172,000	0	115,172,000	
電気料金	110,122,000		110,122,000		110,122,000	
ガス料金	50,000		50,000		50,000	
水道料金	5,000,000		5,000,000		5,000,000	
清掃費	34,000,000		34,000,000		34,000,000	常駐清掃委託費
修繕費	2,000,000		2,000,000		2,000,000	小破修繕費
機械警備費	3,300,000		3,300,000		3,300,000	機械警備費
設備保全費	273,688,000	0	273,688,000	0	273,688,000	
空調衛生設備保守	36,000,000		36,000,000		36,000,000	空調調和設備保守委託費
消防設備保守	3,250,000		3,250,000		3,250,000	消防設備保守点検費
電気設備保守	1,400,000		1,400,000		1,400,000	電気設備保守委託費
設備運転監視委託費	34,600,000		34,600,000		34,600,000	設備運転監視委託費
常駐警備委託費	43,000,000		43,000,000		43,000,000	常駐警備委託費
その他保全費	155,438,000		155,438,000		155,438,000	ネットワークセキュリティ保守、AED等
共益費	0		0		0	
公租公課	41,715,000	0	41,715,000	0	41,715,000	消費税、印紙税、固定資産税
事業所税	0		0	0	0	
消費税	41,680,000		41,680,000		41,680,000	事務局積算による数値
印紙税	20,000		20,000		20,000	
その他（固定資産税）	15,000		15,000		15,000	事務局積算による数値
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	96,196,000	0	96,196,000	0	96,196,000	
本部分	79,681,000		79,681,000		79,681,000	事務局積算による数値
当該施設分	16,515,000		16,515,000		16,515,000	ショップ・カフェ運営費、企業協賛金活動、産業医等
ニーズ対応費			0		0	
支出合計	1,141,654,000	0	1,141,654,000	0	1,141,654,000	
差引	0	0	0	0	0	